

「御南(みなん)」ということば

(その1)

(郷土史 一口メモ)

おなじみの「御南中学校」という名称のうえつけられている[御南]という文字のいわれを尋ねられたことがあります。

この町内を含めて、この地区が昭和27年に合併するまでは、御津郡今村大字田中の一部でした。

御津郡は、明治時代に御津郡と津高郡が一緒になってできた郡で、今でもその郡名は残っています。今村が岡山市に合併する以前の昭和22年学制改革によって新制中学校が開設されることになったが、今村のほか隣接する御津郡内の大野村、白石村、芳田村（いずれも現在は岡山市に合併されている）の4か村で、一緒の中学校が作られた。

そして御津郡南部に位置する4カ村組合立の中学校という意味をこめて「御南」中学校という校名が生まれたのです。

昭和62年7月号 第3号
(中 尾 佐之吉)

[田中野田]の地名の由来

(その2)

[田中野田]とは、田中の地区内にある小字の「野田」という意味で「田中野田」という。また大野学区にも大元学区にも、野田というところがあるので単に「野田」という

のではまぎらわしいため[田中野田]といわれる理由もある。

そもそも「田中」は、昭和27年岡山市に合併するまでは御津郡今村の中の“大字田中”であったし「田中」は、明治22年に村制がしかれる前は[田中村]であった。

そして、田中村は、いまから約600年前わずかながら人家があったと言われるので（今村誌による）それより少し前に開けたのである。

「田中野田」は、それよりずっと遅く、今から300年前から400年前くらい前に開墾されて生まれたものと思われる。

「田中」でも「野田」でも地名に特別の意味はない。字義のとおりと思う。

昭和62年10月号 第4号
(中 尾 佐之吉)

